

困苦に会ひたりしは我に善きことなり これによりて我 汝の律法を学び得たり【詩篇 119:71】

第二主日礼拝

午前 11:00-12:00
 (YouTube 同時配信)

前奏・黙祷

招 詞 詩篇 138 篇 6-8 節 (旧約 1080)

賛 美 我らの神こそ (インマヌエル 9-1・2・3 節)

交 読 詩篇 51 篇 1-19 節 (旧約 985)

主の祈り・使徒信条

聖書朗読 ダニエル書 1 章 3-21 節 (旧約 1506)

牧者公祷 (換気を行います)

説 教 『どうぞ試してください』 松井 元始 牧師

応答のとき

賛 美 シャウト・トゥ・ザ・ロード (Shout to the Lord) (ひむなる 166)

感謝祈禱 (献金の感謝とともに)

頌 栄 父・御子・御霊の (インマヌエル 7)

祝 祷

後奏・黙祷

* * *

報 告

【献金は週報に添付の封筒を用いて、入口の献金かごにお入れください】

〈司会〉 〈奏楽〉 〈受付〉 〈聖書朗読〉 〈感謝祈禱〉
 松井師 牧子師

配信をご覧になれない方には CD を後日お届けできます。お申し出ください。

インマヌエル王子キリスト教会 牧師:松井元始

〒114-0023 東京都北区滝野川 1-41-6 Tel 03-3910-4529

HomePage: <https://igm-ouji-church.jimdo.com/>

E-mail: immanuelojchurch@gmail.com

銀行振込:みずほ銀行 王子支店 普通 1364893



『どうぞ試してください』 (ダニエル書 1 章 3-21 節) 2021.9.12.

〈はじめに〉 聖書とはどんな書物ですか? 聖書から何を知り、得ようとして読んでいますか? 聖書の過去の物語と叙述の中に、神が如何なる方で、どのように考え行動される御方なのか、人とは何者かで、神はどのように人と関わり、人に何を求めておられるのかを汲み取りたいと願います。

I 異国に生きる

① 溶ける民族

他国で生活するだけでも大変なことです。捕虜には屈辱・冷遇・抑圧と差別が露骨に加わり、守ってくれる母国がない悲哀と辛酸を味わいます。やがて大部分は言語・文化習慣・氏名・宗教も崩れて寄留国に同化して、民族は溶けて消えるのが歴史の常道です

② 王の召しにより(3-7)

ネブカドネツアル王は仕官させるに有望な少年をイスラエルの捕虜の中から選び、英才教育を与えます。王と同じ食事、最高の学びの機会は格段の榮譽ですが、同族とは分断されます。その中に、ダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザルヤがいました。

③ ダニエルの決意(8)

モーセの律法には食物規定があります(レビ 11:2-47, 申命 14:3-20)。神々に献納された食物が並ぶ王の食卓は宗教的儀式と直結していました。ダニエルは律法にそぐわない食事で身を汚すまいと決意します。この国で彼はどのように生きようと決意したのでしょうか。

II 提案と挑戦

① 試してください(9-14)

ダニエルは決意を願いますが、宦官の長は難色を示します。そこで世話役に提案を持ち掛けます。どんな提案ですか(12-13)。ダニエルはこの提案の勝算がどれくらいだと思っていたでしょう。神の「恵みとあわれみ」(9)は具体的にどこに見つけられるのでしょうか。

② 神を試す

神を試みることをイエスも律法も禁じます(マタイ 4:7, 申命 6:16)が、「わたしを試してみよ」(マラキ 3:10)ともあります。両者の違いはどこにあるでしょう。ダニエルの提案は神を試みたのでしょうか。その動機、目的を言い表してください。

③ 神の恵みと賜物(15-21)

十日後、ダニエルたち 4 人は顕著に壮健で、世話役はこの食事を継続することにしました。神は、この 4 人の少年に知識・知恵・理解力を、ダニエルには幻と夢を解き明かす能力を授けます。彼らの知恵と能力は抜群で王も認めるところとなり、彼らは王に仕官します

III この世できよく生きる

① どのように生きたいか

私たち信仰者はこの世では少数派で、ひたむきに生きています。その中で神を信じる信仰を保つことは容易ではありません。異なる価値観・原理原則の中で私たちはどのように生きたいと願っているのでしょうか。

② より良く生きたい

生活の必要が満たされ、日々支えられて平穩無事に生きられるよう、私たちは神に助けと満たしを祈ります。主の祈りの後半にも見られる自然な欲求です。私たちは何のために、どんな動機でそれらを神に求めているのでしょうか。マタイ 6:35-34 を読んでみましょう。

③ きよく生きたい

神は聖く比類なき方で、神はご自身に近づく者にも聖さを求められます(レビ 11:44-45)。ダニエルはこの神の前にきよく生きることを求めました。聖い至高の神に相応しく崇め、信頼し、身をもってそれを世に示すためです。生ける神はそれに応えられる御方です。

〈おわりに〉 この地、この時代にも神は生きて働いておられることを証して、神から与えられる愛と平安と喜びを周囲に響かせるために、神は私たちを召されました。神が「あなたを祝福し、地のすべての部族はあなたによって祝福される」(創 12:1-3)ためです。(H.M.)